

10 Cold Storage (Great World City 店)

シンガポール事務所

1 概要

現地資本スーパーマーケットである Cold Storage は 1903 年に設立されたシンガポールで最初のスーパーマーケットです。オーガニック、ハラール認定品（ムスリム対応食品）、デリカデッセンなど常に新しいイノベーションを投入し続け、シンガポールのプレミアムスーパーマーケットを目指し、現在 57 店舗を構えます。

今回の研修プログラムでは、Cold Storage 最大店舗であり高級住宅街の中に位置する Great World City 店を訪れました。

2 高所得層の顧客獲得への取組みと日本食品

Cold Storage では、テーマにする国を決め、各国の食材を紹介する「Country Fairs」や生産農家を招いてのプロモーション活動「Meet Apple Growers」、世界のワインを集めた販売会の開催や「イチゴ & シャンパン」といったペアリングによる広告強化等の戦略を展開しています。

Great World City 店は周囲に高級コンドミニアムを多く立地していることから、主な顧客層は外国人であり、欧米諸国をはじめ、日本人及び韓国人など各国の駐在員とその家族が約 7 割を占めています。また、販売している高品質の食材・日用品を求め、シンガポール以外の周辺諸国（マレーシア・インドネシアなど）に駐在している駐在員家族も、週 1 回のペースで来店し「大量買い」をするケースも増えているとのこと。所得の高い顧客が多い、すなわち食・健康への意識が高い顧客が多いことから、特に健康食品（ローファットの食品）、オーガニック食品、ワイン・チーズの販売コーナーの充実化を図っています。

また、Cold Storage は、他の現地資本スーパーマーケットよりも、比較的多くの日本食品を多く取り揃えています。特に昨年の店舗リニューアルに合わせて質の高い食品を求める高所得者層向けに、日本産品コーナーを大幅に



Cold Storage スタッフからの説明に熱心に耳を傾ける研修参加者の様子



日本産の野菜の陳列棚上に設置されている「Japan」のロゴマーク

拡充、大変好評を博しているとのことでした。そこでは、肉・野菜等の生鮮食品をはじめ、スナック、各種調味料などバラエティに富んだ商品を幅広く取扱っています。日本人が多く使用するものの、シンガポール国内ではあまり売っていない霜降りの牛肉や牛・豚の薄切り肉の種類も豊富です。

日本の農産物は国内価格の3倍程度の価格で販売されており、他国産農産品よりも高値でありつつも、品質・味の高さに定評があることから、どこのものが良いか、品定めされ選ばれています。本当においしいもの、品質の良いものが商品として取扱われており、知名度のあるブランドとして定着化していくと言えます。

日本人でも好き嫌いが分かれる、外国人が苦手とする日本食品のひとつに納豆がありますが、このCold Storage Great World City店の冷凍品コーナーでは多くの納豆が販売されています。健康志向の高い顧客が多いことから、日本人のみならず、欧米系・シンガポール人客の購入量も近年増えているとのことでした。

3 所感

Cold Storageの中で今回訪問したGreat World City店は、特に広い売場面積と世界各国の多様な食料品の多さ、そして全体的に清潔感溢れる雰囲気を持ち合わせる店舗です。販売商品の付加価値のみならず、Cold Storageという企業の付加価値を高め、話題性を創出し、常に顧客のニーズ把握に努めているといった同社の姿勢からは、学ぶことが非常に多かったように思います。

シンガポールにおいて、日系百貨店等における物産展などで、日本各地の特産品をPR・販売することは重要な取組みのひとつではありますが、それと並行し、輸出量の拡大や日本の食文化を一般市民に浸透させるといった観点からは、今後このような現地資本スーパーマーケットにおいて、日本各地の商品を流通・販売させることができるかも、重要性を増すものであると感じました。

(吉田所長補佐 岩手県派遣)